

# JPIC NEWSLETTER

通巻 203 号

2019 年 1 月 24 日

## 今年も開催！ 「上野の森 親子ブックフェスタ 2019」 ただいま出展者募集中！

2000年の「子ども読書年」にスタートし、拡充開催を重ねてきた「上野の森 親子ブックフェスタ」を、今年も5月3日（金・祝）～5日（日・祝）の3日間で開催します。

毎年3万人の親子にご来場いただいている当フェスタは、子どもの読書推進会議、日本児童図書出版協会、JPICの3団体のもと、運営委員会を組織しています。

19回目の開催となる2019年度は、これまで以上に、業界内外並びに周辺地域・施設との緊密な連係を図り、読書を通じて親子の触れ合いを促し、より魅力的な場の提供を目指します。



昨年もおたくさんのお客様に楽しんでいただきました

子どもフェスティバルでは、児童書出版社約70社の出展による読者謝恩価格販売や、作家のサイン会、読者交流イベント、協賛社によるデモンストレーションなどを予定しています。

また、国立国会図書館や、国際子ども図書館等と協力して、子どもの読書に関する講演会を開催予定です。

日程：5月3日（金・祝）～5日（日・祝）  
会場：台東区・上野恩賜公園  
大噴水周辺ならびに周辺施設  
出展料：主催各団体の会員社は  
1テントにつき100,000円、  
非会員社105,000円（ともに税込）

JPICのHPにて2月8日（金）まで、出展者募集中です。詳細はHPをご覧ください。

## 福島県飯舘村への読書活動支援

東日本大震災に伴う原発事故により全村避難に見舞われた飯舘村。2017年3月、一部避難区域を除き避難指示が解除されました。

JPICでは「ほんの森いいたて」の開設、「ファーストブック」事業、「読書メッセージコンテスト」と、震災以前から飯舘村の読書活動支援をおこなっています。震災後は復興支援の一環として、2013年から「20歳の20冊」事業もスタートさせています。以下に、最新情報をお知らせします。

### ■「ファーストブック」

飯舘村に出生届を出した生後2ヶ月前の赤ちゃんに絵本を贈るこの事業は、全村避難時も継続されました。『じゃあじゃあ びりびり』（作／まついのりこ 偕成社）など5タイトルの絵本から保護者が選んだ2冊をプレゼントしています。

JPICは贈呈される110冊を、1995年から毎年飯舘村に寄贈しています。

### ■「読書メッセージコンテスト」

読書意識の向上を目的におこなっているこのコンテスト。19回目を迎えた昨年4月に、小中学校の合同施設などが開校。7年ぶりに子どもたちの声が村に帰ってきた年でもありました。小学生から大人まで熱のこもった応募が69通あり、審査の結果、最優秀賞1作品、優秀賞3作品と、JPIC賞の5作品、計9作品が選ばれました。

JPICは審査に協力するとともに、JPIC賞の図書カードを贈呈しています。



新しい校舎で行われた中学校の部の表彰式

### ■「20歳の20冊」

著名人や飯舘村の中井田榮教育長などが選んだ20冊の中から、新成人がそれぞれ選んだ1冊を成人式にプレゼントする「20歳の20冊」。

去る1月13日（日）の成人式で、贈呈がおこなわれました。今年成人を迎えたのは、震災時小学6年生だった56人。『AI vs.教科書が読めない子どもたち』（著／新井紀子 東洋経済新報社）を選んだ新成人の大河内渚さんは「今後、AIで賄える仕事が増えると聞き、きちんと知識にしたかったので選びました。『20歳の20冊』は、気になる問題へ一歩踏み出すいい機会になると思います」と話しました。

JPICは20冊のリスト制作に協力し、HP（トピックス）に掲載しています。今後も、JPICは飯館村の読書推進活動に協力していきます。



中井田教育長から1冊ずつ手渡されました

## 読書バリアフリーを目指して 毎日新聞社と点字・大活字セッション開催

1月19日（土）出版クラブホール（千代田区）にて、「ホンヨモ！セッション ～点字や大活字に触れてみよう～」を開催しました（主催：ホンヨモ！セッション実行委員会 共催：JPIC 協力：NPO法人 大活字文化普及協会 子どもゆめ基金助成活動）。「視覚障害者も読みたい、学びたい」をテーマに、女優の篠田麻里子さん、2006年に日本で3人目の全盲の弁護士となった

おおごだ 大胡田 誠さん、点字毎日新聞の山縣章子記者を登壇者に迎えたトークセッションに、親子連れを含む約100名が参加しました。



初めて見る方も多かった点字新聞

大胡田さんは12歳で失明したころに、全盲の弁護士・竹下義樹さんの著書『ぶつかって、ぶつかって。』（かもがわ出版）という本に出会い、「人生の希望がないと感じていたが、弁護士として誰かのために働くことができたら自分を好きになれる。自分の思いで変えていけると思った」と語りました。その竹下先生は現在の上司で「ときには叱られることもあります」と微笑ましいエピソードも披露。記者の山縣さんからは音声で聞き取る新聞が紹介され、大胡田さんが普段聴いているという2倍速にしてみると、篠田さんからは「全然分かりません」と。会場のほとんどの方が同様の感想をもったようで、その速さに驚かれていました。



点字タイプライターを使える貴重な機会となりました

第二部では、実際に点字本や点字新聞、大活字本にふれる体験イベントを実施。点字のタイプライターや携帯型点字器を用いて名刺を作成するコーナーでは、参加各々が作成した名刺を見せ合い交流していました。また、大胡田さんが実際に使用している点字ディスプレイなどについて解説するコーナーでは、活発な質疑応答も。「話を聞くだけでなく様々な体験を通じて感じ、考えたことをもとに、教育現場に活かしていきたい」など感想がありました。

（視覚障がい者その他の）印刷物の判読に障害のある方が、発行された著作物を利用する機会を促進するための「マラケシュ条約」が、2013年に発効されました。日本は2018年に加盟し、今年1月1日より施行されました。国内法制の整備のため「読書バリアフリー法案」も検討されており、近々、国会に提出される見通しです。

視覚障がい者が、文字・文章・図等の書かれた印刷物から情報を得ることの困難さ、重要さを知ることは、私たちにとって、バリアフリー社会を作る一助となるはずです。本セッションは、そんな思いをもって開催しました。

NEWSについてのお問合せや詳細資料ご希望の方は、事務局までお申し付け下さい。

JPIC HPアドレス：<http://www.jplic.or.jp>

賛助会員様のイベント情報を発信します！

文責：中泉 淳 (nakaizumi@jplic.or.jp)